

全日中事務局だより

本年度をもって御勇退される皆様、
本会活動への御理解・御協力ありがとうございました。
うございました。

第3回理事會情報交換の概要

1月20日の第3回理事會の後半、全
国を6地区に分けて情報交換を行い、
終了後各地区から報告をいただいた。
今回のテーマ、情報教育から①環境整
備と取組②情報モラルの育成、です。

北海道・東北地区 ネット環境も改善
され、オンデマンドでモデル校の授業
を画像配信したり、教員の研修などで
テレビ発信している所もある。パソコ
ンも整備はされつつあるが、情報漏え
いを防ぐ意味からセキュリティが強
過ぎて、調査や、調べ物をしようといっ
たとき、十分に行えない悩みもある。
公的PCが全教員に配置されているが、
まだ私物の持ち込みがある。市町村に
より、メールの自由な発信の可否や、校

務支援システムの普及が進む所と、導
入のない所がある。実物投影機、タブ
レット導入、無線LAN、電子黒板等
の整備が進み、行政の考え方・優先順
位もあつて、差がある。情報モラルに
関しては、子供、地域、PTAなどに
向けて、教育センターからの発信、情
報モラルプログラムの活用がある。地
域懇談会、PTAへの啓初活動、研修
を実施。依存症の恐怖について、脳科
学の分野の研究者の研究結果なども披
露しながら啓発に努力。講師として、
警察、NNT、市教委の方々を招聘し
推進。中学生が情報モラルを学習し、
それを小学生に教えることで学びを深
めていく取組が参考に。生徒の声を聞
き、生徒会主体の活動にする手法も。
関東甲信越地区 整備状況は、格差大。
整備進む所では、アクティブ・ラーニ
ングに有効、子供も授業に乗ってくる。
道具なので、教師の授業力がないと有
効には使えない。また、ICTを活用

した授業を進めたとき、子供たちが
ノートに整理する力、書く力をどう担
保していくか、また、話し合い活動を
充実させていくことが必要。情報モラ
ルについて、市とPTAと校長会が連
携し、LINEは夜9時以降やらない
という規制をつくった。全体への影響
はわからないが、LINEをやめた
という子供には、それを理由にでき
るので、意味がある。保護者自身がS
NSに無防備で、保護者の啓発必要。学
校ができることは限界があるが、情報モ
ラル教室を開くことが必要。子供がス
マホを使うリテラシーつけることも必
要。

東海北陸地区 ICT環境は、市町村
ごとに差。プロジェクト、書画カメ
ラ、教室に1台のパソコン整備の学校
もあるが、予算に課題。進んでいる所
は、学校に業者のサポーターを1人配
置しICT教育を推進。情報モラルで
は、保護者、生徒への指導をきちんと

する。保護者へは、小学校入学前にPTAが主体で、4月、5月ぐらいに講師を呼んで啓発活動。生徒へも、4月、5月の入学時点で指導。指導主事が各教室を回って、情報モラル教育を教室ごとに実施の具も。授業参観、入学式あるいは卒業式等で、保護者が勝手に撮影しLINE等で流す恐れがある場合、事前に撮影禁止の断りを入れる。

近畿地区 市町村で差大。大阪市で8校モデル校指定。企業からICT支援員として5日間常駐、8時半から5時の間支援、若い教員が様々な扱い方を教えてもらい、ICT教育が進む。これはモデル校のこと、全体は厳しい。支援員に来てもらうことがICT教育を推進するポイント。情報モラルについて、各校で、au、docomo、他の方々に無料で来てもらう。それを十分に活用し、実践。その中で、兵庫県立大の竹内先生に、ルールづくりとか、様々なことを教えてもらった。

中国・四国地区 パソコンが教員に

渡ってない所もある。電子黒板は、学年、クラスに1台という学校、既設テレビを活用し各教室にプロジェクターを設置して授業を進めている所。ツールとして、デジタル教科書を教員が活用。そのデジタル教科書の中で、「考える」はできて、ノートに書く、自分で作図するという部分でのしつかりした授業の運用等が必要。鳥取県が平成29年度から全域で校務システム導入。情報モラルは、LINE等がはじめにつながるケースもあり、対策として、出前授業で、警察、民間の業者を通じて教員の講習会、勉強会等を行い、生徒向けの出前授業を大半の学校が実施。LINE業者を東京から招聘、業者から、これはいい、これは悪いと直接生徒、教員に指導を受けた学校も。情報モラルは、SNSの時間を制限するのも大事だが、正しい使用についてルールを生徒、保護者にしっかり指導。その中で、小学校から段階的に指導必要。九州地区 先進的な取組は県教委が推

進、市町の教育長の考え方大きい。教員に、電子黒板とかデジタル教科書の活用についての研修、また、子供たちの情報モラルについての指導を、関係機関等との連携をとりながら実施。コミュニティ・スクール運営協議会に子供たちが参加。そこで熟議をして生徒会に投げかけ、各学級で話し合ったものを基にルールづくりをし、それを家庭や地域に発信。家でも、もう時間が来ているから接続はやめなさいと、声かけできるようになった。

会員計報

三重県亀山市立亀山中学校長
川口 謙次様 六十歳 一月二日
兵庫県篠山市立丹南中学校長
赤井 敏博様 五十九歳 一月三日
沖縄県恩納村立仲泊中学校長
富名腰朝勇様 五十八歳一月二十五日

謹んでお悔やみ申し上げ、御冥福をお祈り申し上げます。

(事務局長 堀井 榮夫)